



3階メインライブラリー。吹抜けを介して上階のフロアが垣間見える。左にはテラスの一部を囲む半屋外のサンルームがある。



3階メインライブラリーを見下ろす。正面に見えるトラス梁のメガストラクチャーには機械設備などを収めるほか、排煙層や吸音層としても機能する。



4Fメガストラクチャーが見えるメインライブラリー。テーブルやソファ、卓上照明も設計者によるデザイン。



2階子どもライブラリー。図書のテーマに合わせて書架の角度を振っている。天井のホルーパーがテラスまで延びる。



4階よりメインライブラリーを見下ろす。開口部を大きく設け、テラスの先に周囲の街並が見える。

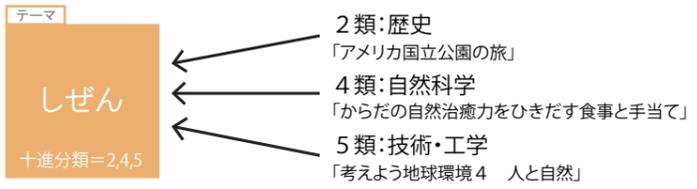
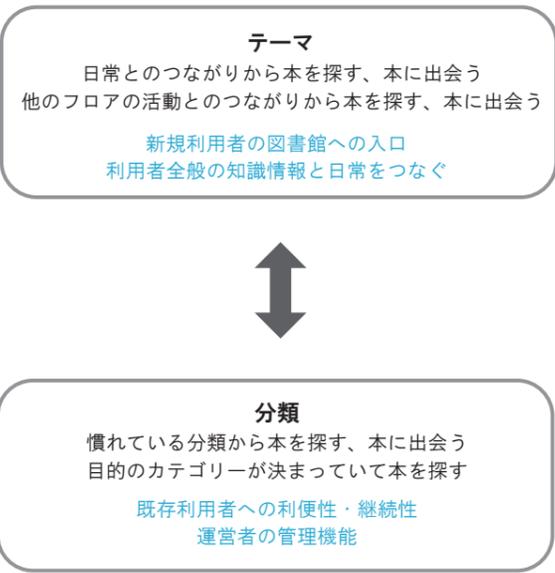
活動と連動する須賀川オリジナルのテーマ配架

- ◆コンセプト
須賀川市民の日常生活の行動（アクション）を支える
- ◆テーマ配架の5つの方針
1. 地域を学び、世界を学ぶためのきっかけとなる書架
 2. 十進分類にとらわれない、知的好奇心にあふれる書架
 3. 紙の本を中心に、複数のメディアで構成された書架
 4. 多様な本と本のつながりを生み出す書架
 5. 市民と図書館員の協働により進化し続ける書架

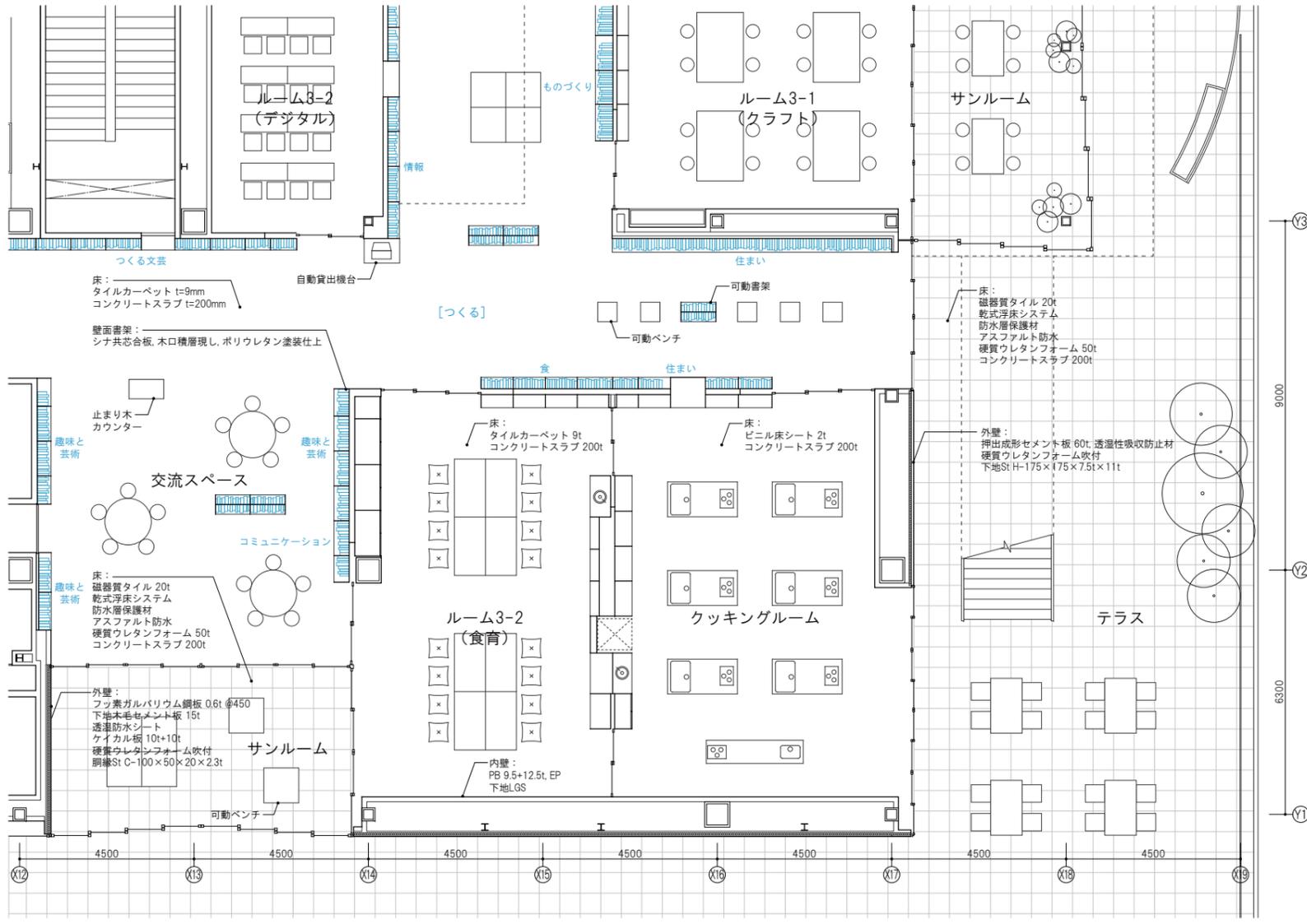
◆空間を構成する8つのテーマ

この施設では従来の十進分類法による配架ではなく「テーマ配架」を採用した。例えば「つくるフロア」には「ものづくり」、「食と住まい」、「趣味と芸術」などの本を配置し、子育て支援センターのある「はぐくむフロア」には「育児」や「ものがたり」などを配置している。各活動に沿った配架とすることで利用者と本の新しい出会いや発見が生まれることを期待している。

また、この配架計画を実現するため、施設スタッフと綿密に打合せをし、本のラベルや建築サインの統一、また自動貸出機や検索機、返却機の適度な配置、各フロアの運営時間のズレに対応する可動式の管理用扉などを計画した。



わくわく	ことばとかず	しぜん	しゃかい	しゅみとせいかつ	れきしとじんぶつ ※こどものための地域郷土資料含む	ものがたりとえほん ※紙芝居を含む	専門図書 文学研究 古典	あきない 郷土福島 郷土須賀川	郷土館内	
まなぶ	ラウンジ	日本と世界	自然と科学	心と体	社会と仕事	創造とテクノロジー	ティーンズ	物語と文学	あそぶ	
はぐくむ	あかちゃんものがたりはぐくむ	育児	地球科学 生命	食と住まい	福祉と家族	ものづくり	趣味と芸術	日本と世界	コミュニケーション	
うごく・かなでる	趣味と芸術	運動	映画と映像 特撮	楽譜 楽器 歌	情報	あつまる	円谷英二、 その人と歴史	空想機械学と 機械学	空想生物学と 生物学	特撮と 環境学・高話学 映像学・天文学 めぐる人々





4階交流スペース。周囲には音楽演奏や軽スポーツのできる貸室があり、その壁面に活動に関連する図書を配置している。



4階交流スペース。吹き抜けから光が落ちる明るいスペース。



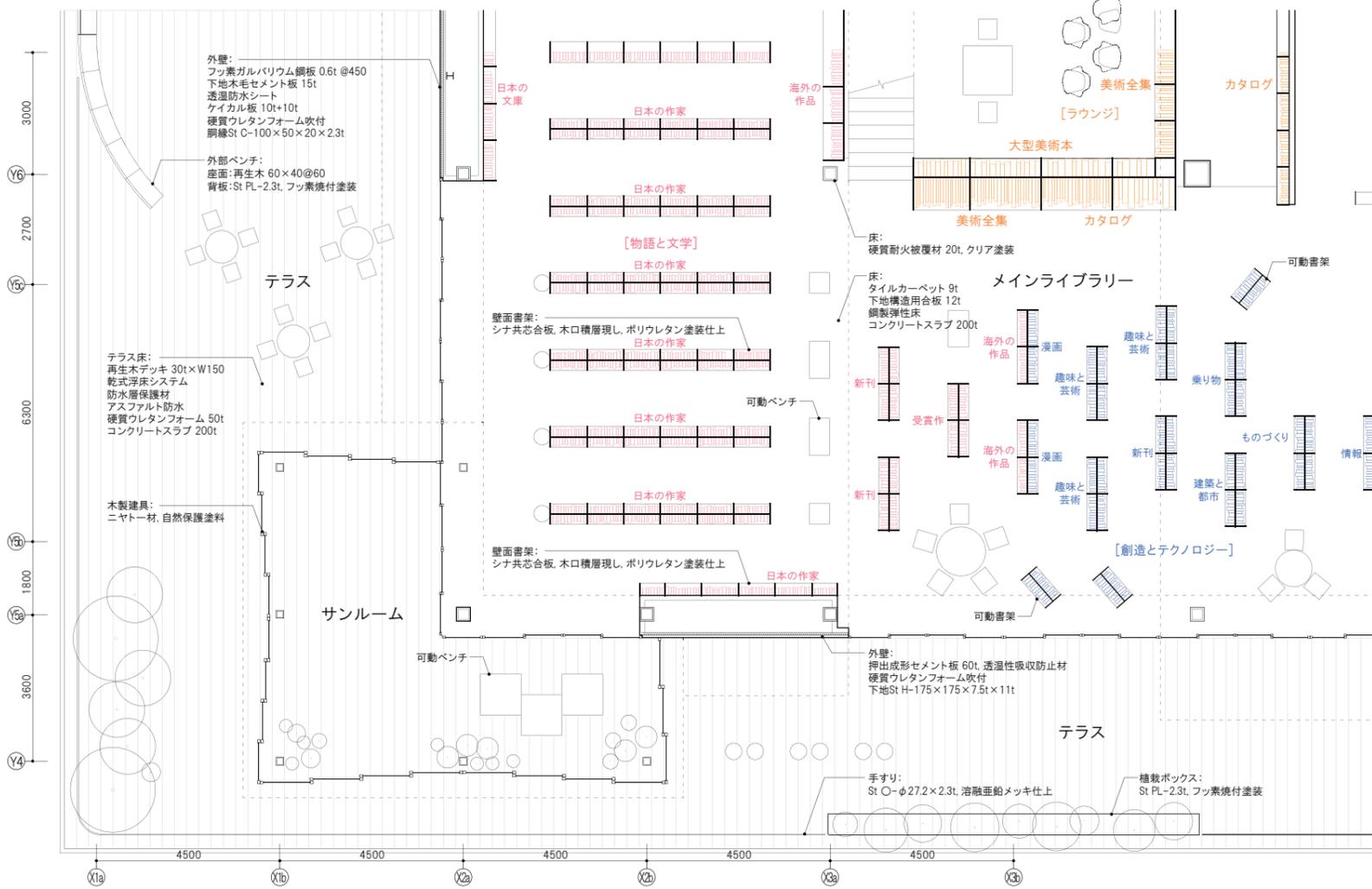
3階交流スペース。アルミパンチングメタルの天井が貸室内部や屋外へ連続する。

柔軟性を生む書架配置とサンルーム

メインの図書フロアでは固定する書架の連数を少なくし、書架同士の間約900mmのスペースを空けている。そのスペースに同サイズの可動の書架やソファを置いたり、また通路にするなどスタッフが自由に考えレイアウトできる計画とした。また屋内と屋外テラスの間には軒下のサンルームを設けている。中間的な領域をつくることで、季節や気候に応じて木製の建具を開閉し、様々な利用が可能な計画としている。



メインライブラリーに面するサンルーム。2階から4階にかけて計7ヶ所ある。屋内の空調をカスケード利用しており、夏季・冬季は半内部的な場所に、中間期は木製建具を開けて屋外的な場所になる。



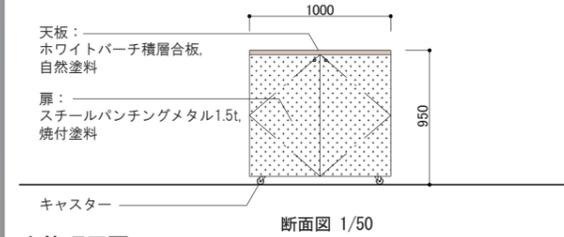
3F 平面詳細図(「まなぶ」フロア) S=1/150

機能の融合を実現する家具

建物全体を通じて利用者にとって使いやすく、また分かりやすい空間とするために、建築と人をつなぐ家具は細かく配慮して設計した。家具は手に触れるため、木をベースとしつつ、耐久性や安全性、また可変性に配慮してそれぞれ計画している。

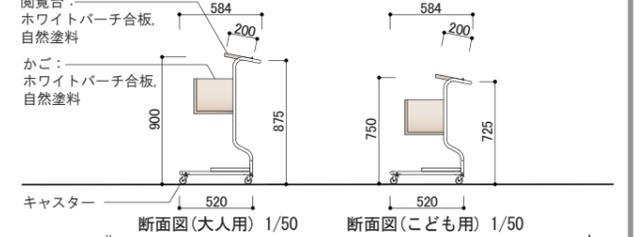
◆とまり木カウンター

スタッフの一時拠点になる小さなカウンターを随所に設置している。タブレットを使ったレファレンスや一時的な本の回収や備品収納など今後の運営にも柔軟に対応する。



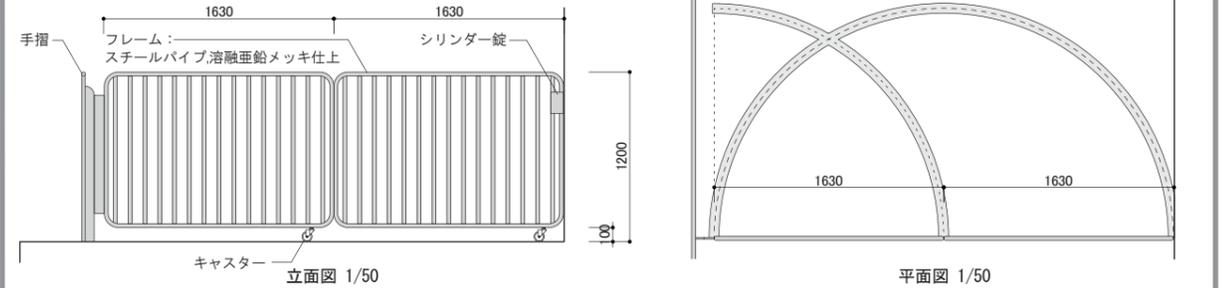
◆ブックカート (大人用+子ども用)

館内全体で本を持ち運びしやすいようにブックカートを設計。カゴに加えて閲覧台や荷物置などを設けた。大人用と子ども用の2種類のサイズがある。



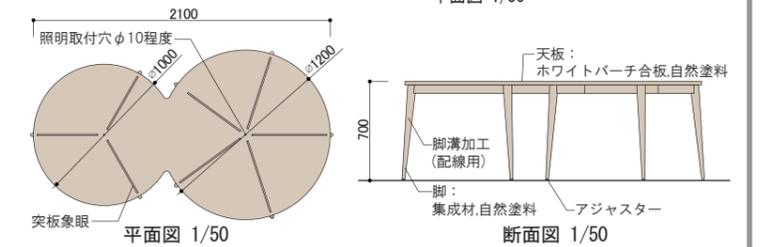
◆管理用扉

メインライブラリーやこどもフロア、ミュージアムなどの運営時間が異なるエリアを容易に仕切られる管理用の扉。閉館時の圧迫感を減らしつつ、各フロアの緩やかな分節を可能とした。



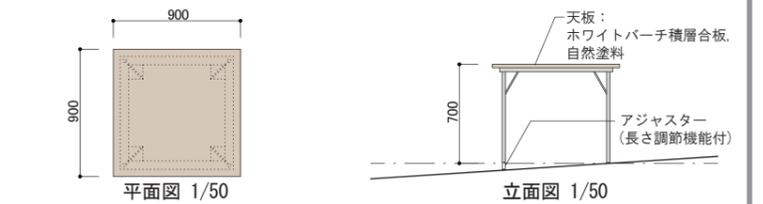
◆図書館テーブル

省スペースでたくさんの方が同時利用できるように「ひょうたん型」の平面で設計した。木の角枿を象嵌で埋込み、個々のスペースを柔らかく区別している。



◆tette通りテーブル

tette通りの傾斜に対応させるため、制作のアジャスターを設計。スタッフが容易に高さを調節できる。



◆独立書架

広いワンルームのなかで圧迫感が少なく、周囲を見渡しやすいように、高さを約1500mmに抑えている。基本的には2連(幅1800mm)とし、約900mmの空きスペースを設けることで様々なレイアウト変更を可能にした。

◆可動書架(一般用+展示ケース付)

キャスター付きの高さの低い書架。幅900mmとし、書架と書架の間に配置できるため、テーマの変更などに柔軟に対応可能。また展示ケース付きもあり、本以外の様々な情報を置くこともできる。

◆可動ソファ

さまざまなサイズがあり、女性でも移動しやすいキャスター付とし、また組合せによって立面のカーブが変化する。幅900mmのタイプは書架と書架の間にレイアウト変更できる。

